

## U I ターン者等への意識調査結果の概要

### ■ 調査概要

#### 1. 調査の目的

全国的に人口減少・高齢化への対応が急務となる中で自治体間の競争も激化しており、当県の移住・定住施策の効果や課題等を把握・検証し、今後の施策構築や見直しに反映する。

この調査では、移住・定住に関する意識や関心の度合いに応じ、次の3つの階層ごとにアンケート調査を行った。

「実践層」＝ 既に島根県へU I ターンした人

「関心層」＝ 島根県へのU I ターンを検討したことがある人

「低関心層」＝ 都市部在住で地方へのU I ターンを検討したことがある人

※本調査では、Uターン者：島根県出身者、Iターン者：県外出身者の意味で用いる。

#### 2. 実施期間と調査対象

実施期間： 平成 28 年 12 月 27 日～平成 29 年 3 月 31 日

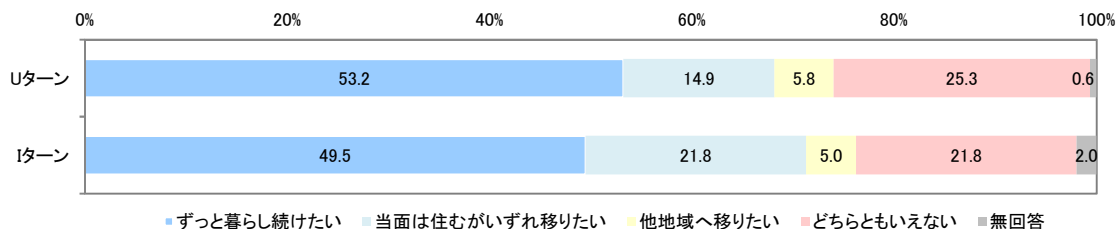
調査対象：

		実践層	関心層	低関心層
対象者		定住財団の支援制度を利用して就職が決定した人など（回答数 258）	定住財団に情報登録している県外在住の人（回答数 604）	都市部在住で、U I ターンを検討したことがある人（回答数 1,066）
回答者の概要	比率	「Uターン」…60.4% 「Iターン」…39.6%	「Uターン」…57.3% 「Iターン」…37.7%	「Iターン」…100%
	性別	「男性」…72.5% 「女性」…23.3%	「男性」…62.3% 「女性」…24.2%	「男性」…56.8% 「女性」…43.2%
	年齢	「30代」…41.9% 「20代」…33.3% 「40代」…13.6%	「30代」…21.5% 「40代」…21.2% 「70歳以上」…16.7%	「30代」…23.2% 「40代」…22.8% 「20代」…16.1%
	住所	松江市 30.2%、出雲市 24.4%、益田市 21.7%、ほか浜田市、雲南市、邑南町、津和野町、飯南町など	東京都 16.7%、大阪府 14.2%、広島県 12.4%、ほか神奈川県、兵庫県など	首都圏 53.1%、関西圏 23.5%、名古屋圏 13.2%、ほか九州圏

## ■実践層（U I ターン者）の状況

### 1. 今後の意向

#### ①定住意向（U I ターン別）



#### ②他地域へ移りたい理由（複数回答）

※①「当面は住むがいずれ移りたい」「他地域へ移りたい」と回答した人が対象

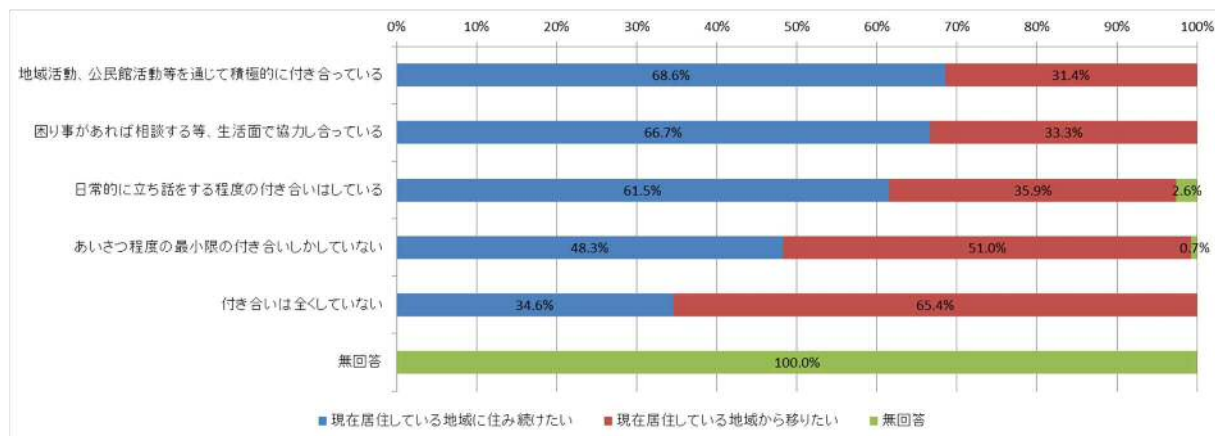
(単位: %)

理由	回答数	Uターン-現在居住している地域から移りたい (%)	Iターン-現在居住している地域から移りたい (%)
生活の利便性向上 (買物、通院等)	59	27.1	40.7
職場の人間関係の都合	6.8	10.2	3.4
地域の人間関係の都合	3.4	8.5	22.0
結婚のため	13.6	3.4	8.5
医療環境 (病院等) が整った地域へ行くため	13.6	3.4	8.5
収入を増やすため	13.6	3.4	8.5
通勤条件を改善するため	13.6	3.4	8.5
費用軽減のため	13.6	3.4	8.5
子どもの進学による (学校教育、習い事など)	13.6	3.4	8.5
子どもの教育環境充実のため	13.6	3.4	8.5
子どもの進学または就職に伴うため	13.6	3.4	8.5
親や子世代との同居	13.6	3.4	8.5
新たな住まいを設けるため (親等) 家族から離れたい	13.6	25.0	13.6
出身地等、馴染みのある土地に移りたい	13.6	9.4	0.0
島根に愛着が湧かない	13.6	0.0	33.3
その他	13.6	12.5	18.5
無回答	0.0	0.0	0.0

#### 【ポイント】

- ・ U I ターンともに「生活の利便性向上」が最も大きな理由
- ・ U I ターンで特徴的な理由は、「家族から離れ、新たな住まいを設けるため (Uターン)」、「島根に愛着が湧かない (Iターン)」など。

#### ③近所付き合いと定住意向の関係性



#### 【ポイント】

- ・ 近所付き合いや地域活動に積極的であるほど、住み続けたいという人の割合が高くなる傾向。

## 2. U I ターン後の生活実態（期待度と満足度のギャップ）

※補足資料参照

### ○調査内容

- ・ <仕事><生活環境><医療福祉、教育・子育て>の分野ごとに 10～20 の項目を設け、各項目について U I ターン前の期待度と U I ターン後の満足度を点数化し、回答を得た
- ・ 項目ごとの合計値を回答数で除した値を期待度(または満足度)とし、平均値「どちらでもない(3点)」と比較
- ・ 期待度(または満足度)の採点基準は次のとおり  
「大いに期待(とても満足)」…5点、「ある程度期待(満足)」…4点、「どちらでもない」…3点  
「あまり期待していない(少し不満)」…2点、「期待していない(不満)」…1点

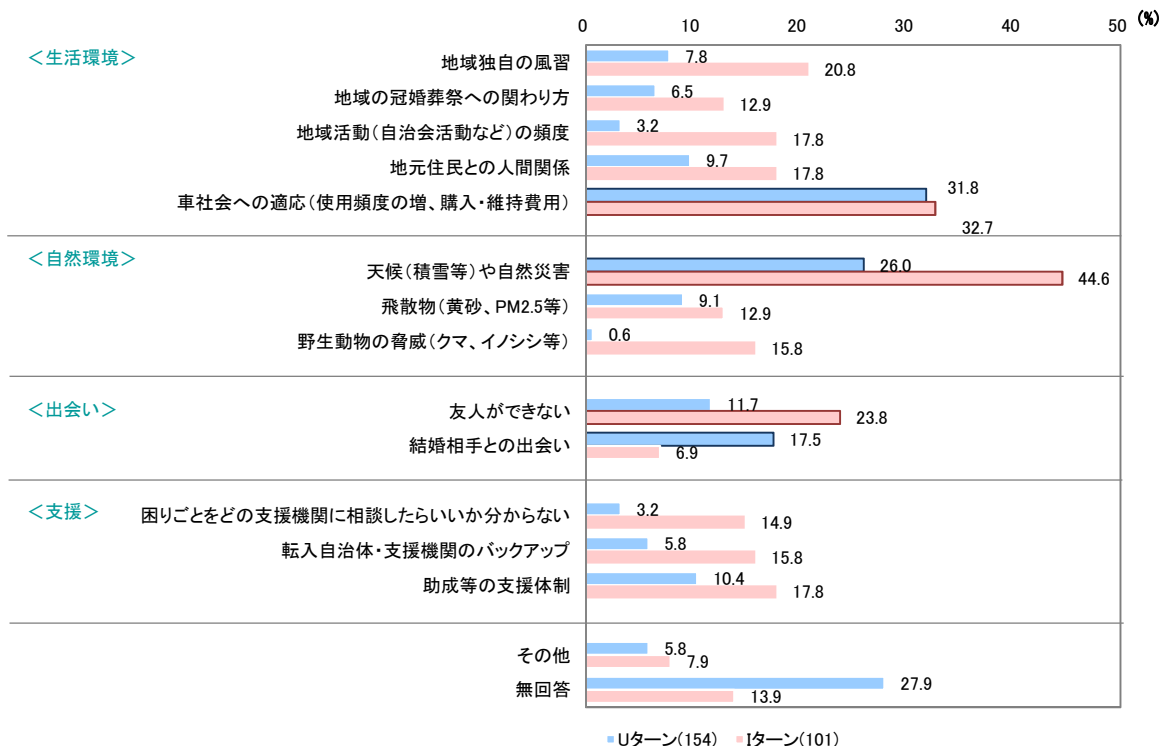
	分野	項目	
		Uターン	Iターン
満足度 高い (3点超)	仕事	仕事内容、 職場の雰囲気・人間関係	仕事内容、労働時間、福利厚生 職場の雰囲気・人間関係
	生活環境	自然環境に恵まれた生活 自然災害の少なさ 仕事とプライベートのバランス	自然環境に恵まれた生活 自然災害の少なさ 仕事とプライベートのバランス
	医療福祉 教育・子育て	都会にはない子育て環境	都会にはない子育て環境
満足度 低い (3点未満)	仕事	給与	給与
	生活環境	交通の便が良い、交通費が安い 家賃・物価が安い	交通の便が良い、交通費が安い 家賃・物価・生活費が安い
	医療福祉 教育・子育て	子どもの学力向上が期待できる	—
期待度より 満足度高い (期待<満足)	仕事	起業・創業ができる環境	労働時間、福利厚生 起業・創業ができる環境
	生活環境	祭りや地域イベントへの参加	買物の利便性が良い
	医療福祉 教育・子育て	医療機関へのアクセス	医療機関の数やレベル、アクセス 結婚相手・パートナーとの出会い
期待度より 満足度低い (期待>満足)	仕事	—	—
	生活環境	家賃・物価が安い	家賃・物価・生活費が安い
	医療福祉 教育・子育て	—	保育所の入りやすさ 子育てにかかる時間の長さ

### 【ポイント】

- ・ 満足度については、U I ターンとも同じ傾向であり、大きな違いはない。
- ・ I ターン者の方が、多くの項目で期待度より満足度が上回っている。

### 3. U I ターン後に不便を感じたこと

[複数回答]



#### 【ポイント】

- ・ I ターンの方が、<生活環境>、<自然環境>、<支援>を中心に不便を感じる割合が高い。
- ・ 中でも、「地域活動の頻度」「野生動物の脅威」「困りごとをどの支援機関に相談したらいいか分からない」は、Uターン者とIターン者の差が大きい。

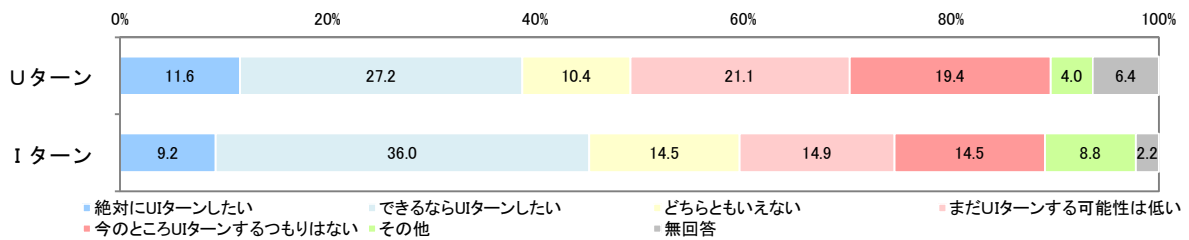
### 4. 総括

- ・ Uターン者に比べ、周囲に縁故者が少ないIターン者の方が、様々な場面で不便を感じている状況が明らかになった。
- ・ U I ターンを問わず、近所付き合いの度合いと今後の定住意向の度合いは比例する傾向にある。

## ■ 関心層（島根県へのU I ターン検討者）の状況

### 1. U I ターン希望の状況

#### ① U I ターン別



#### ② 年代別

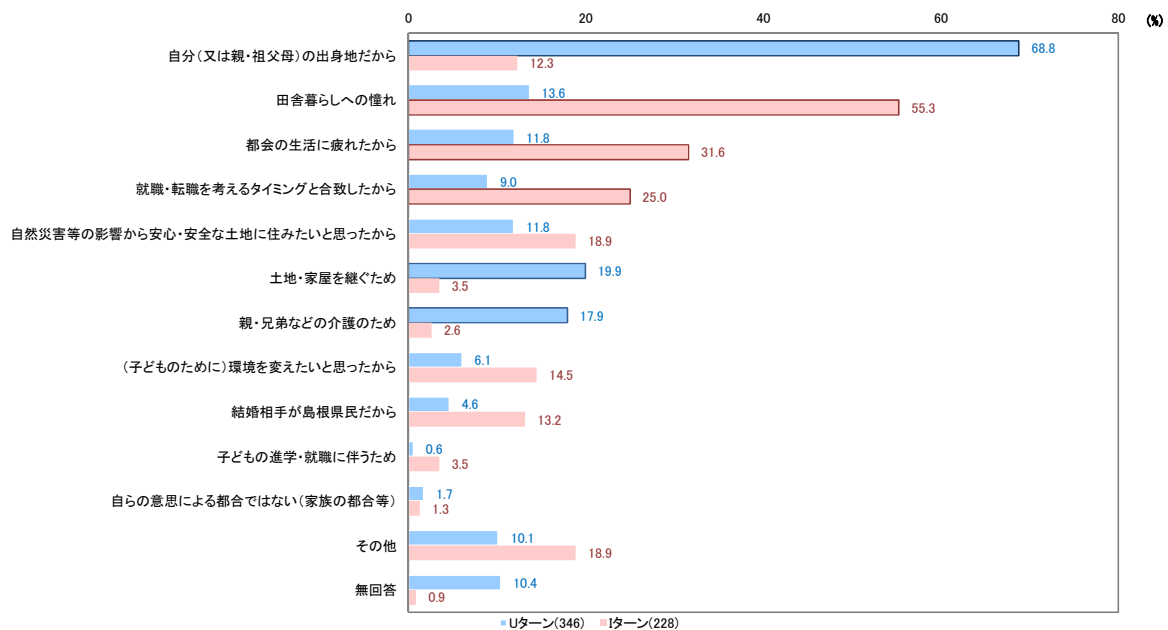
(単位: %)

		20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
Uターン	意向あり	0.0	11.9	21.6	19.4	18.7	19.4	8.2	0.7
	意向なし	0.0	3.7	14.7	12.6	8.4	24.2	34.2	2.1
Iターン	意向あり	0.0	4.9	33.0	34.0	19.4	6.8	1.0	1.0
	意向なし	0.0	5.8	25.8	30.8	24.2	8.3	2.5	2.5

※意向あり…「絶対にU I ターンしたい」と「できるならU I ターンしたい」

意向なし…「まだU I ターンする可能性は低い」「今のところU I ターンするつもりはない」「どちらともいえない」「その他」

#### ③ U I ターンを考えるようになった動機



#### 【ポイント】

- ・ Uターン希望者は30~40歳代のほか、50~60歳代の割合も高く、転職や退職がひとつの契機となるものと考えられる。
- ・ Iターン希望者は、30~50歳代の割合が高く、Uターン希望者に比べて検討する年代の幅が限られる。
- ・ U I ターンを考えるようになった動機として、Uターン者は「不動産の承継」や「介護」といった家族の事情も大きな要因となるのに対し、Iターン者は、「田舎暮らしへの憧れ」や「転職」など自身の意思が中心となる。

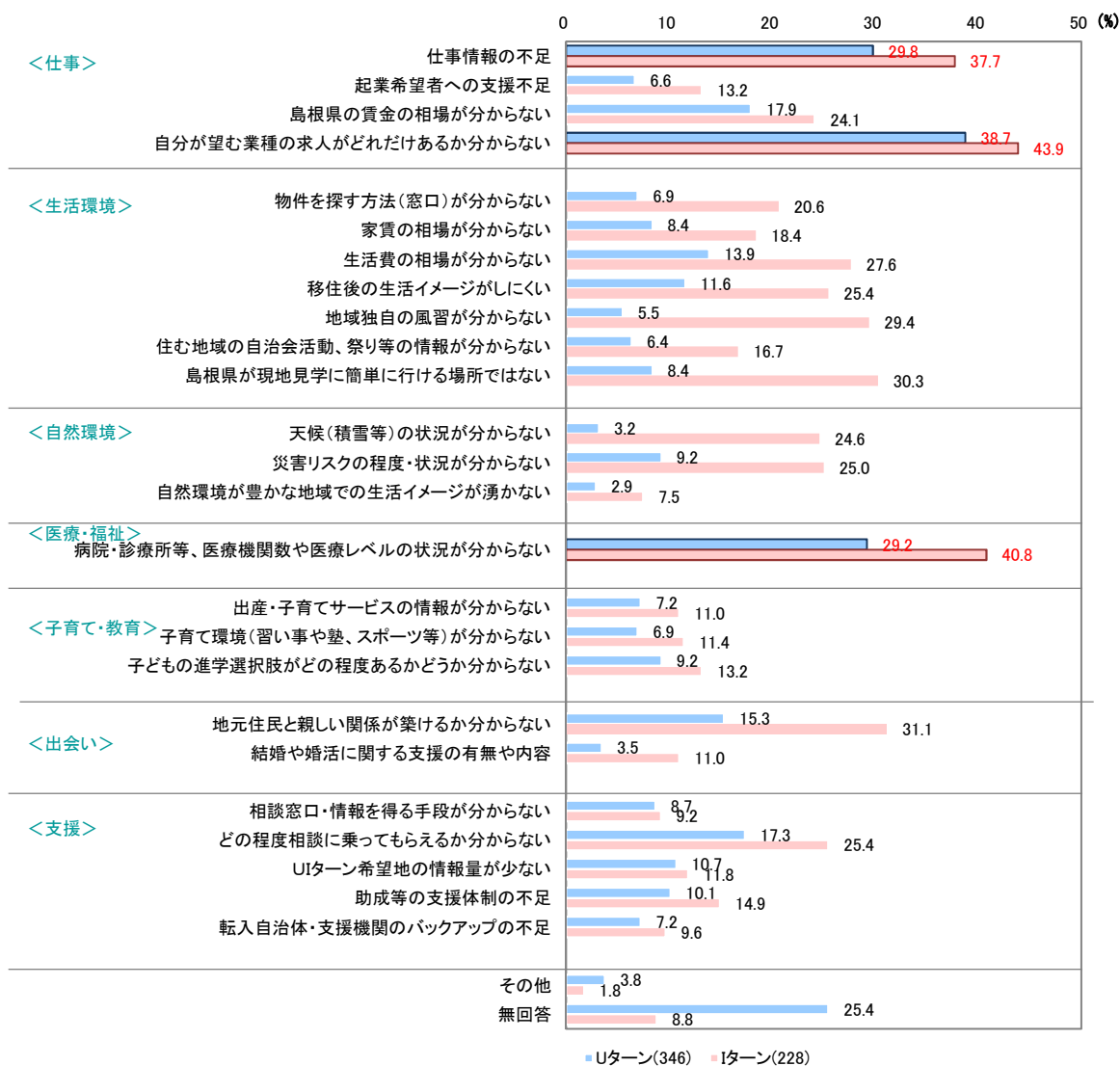
## 2. UIターン検討時の傾向

### ①UIターン後の生活を考える上で重視すること

区分	Uターン	Iターン
仕事	仕事の内容、職場の人間関係 給与、勤務地	仕事の内容、職場の人間関係 給与、労働時間、起業・創業環境
生活環境	自然環境に恵まれた生活	自然環境に恵まれた生活 田舎暮らし（スローライフ） 仕事とプライベートのバランス
医療福祉 教育・子育て	医療機関（数、レベル、アクセス） 子育て環境（自然）	医療機関（数、レベル、アクセス） 子育て環境（自然・地域社会）

### ②UIターンを検討する上で不便を感じていること

[複数回答]



## 【ポイント】

- ・U I ターン者とも重視する項目はほぼ同じだが、I ターン者の方が「労働時間」や「起業・創業環境」「田舎暮らし（スローライフ）」などを重視する傾向にある。
- ・U I ターン者とも、不便を感じる上位3項目は同じだが、I ターン者では、このほか<生活環境>、<出会い>、<支援>などでも不便を感じる割合が高い。

### 3. U I ターンに関する情報源やサービスの利用状況と認知度

	利用したことがある	認知度
定住財団サイト「くらしまねっと」	50.5	72.8
島根県サイト「しまね留学ホームページ」	3.8	31.3
島根県サイト「ゆーあいまね」	11.4	36.9
自治体のホームページ	32.8	56.0
企業のホームページ	16.4	38.1
その他ホームページ情報	17.4	36.3
定住財団や自治体等が発行する情報誌	47.7	63.9
テレビ・新聞・雑誌の記事	21.4	42.1
新聞・雑誌の広告	15.4	36.9
U I ターン相談窓口	28.1	56.5
友人・知人からの口コミ	16.4	33.8
家族・親族からの情報	20.9	39.1
U I ターンフェアや相談会	38.4	66.1
ふるさと回帰支援センター	7.3	28.1
リクナビNEXT等の転職サイト	14.9	34.9
その他	0.0	12.5

### 4. 総括

- ・U I ターンを検討するうえで重視する項目や不便に感じている項目については、実態を把握し、より詳細な情報提供が必要。

## ■低関心層（都市部在住で、UIターンを検討したことのある人）の状況

### 1. 全体の傾向

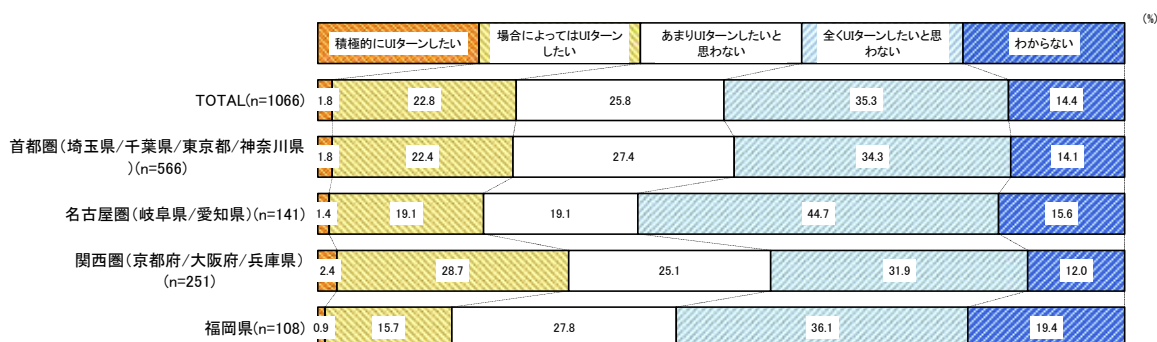
UIターンに興味をもつようになったきっかけ（上位3項目）

※UIターン先は島根県に限らない

- ・田舎暮らしの憧れ（36.3%）
- ・自分または親などの出身地だから（35.3%）
- ・都会の生活に疲れたから（19.6%）

### 2. UIターン希望の状況

#### ①地域別の島根県へのUIターン希望



#### ②UIターン後の生活を考える上で重視すること

※UIターンの候補地として島根県に「関心あり」と回答した人

仕事※1	自分にあった仕事、労働条件が改善、職場の雰囲気や人間関係、収入の増加
生活環境※2	ゆったりとした生活、自然環境に恵まれた生活、適度な人間関係
医療福祉 教育・子育て※3	医療機関の数や医療レベルの充実、都会にはない子育て環境、子どもの人間力形成に良い影響

#### ※1「仕事」

(単位: %)

n=	収入の増加	キャリアアップ	労働状況が改善	通勤時間の短縮	職場の雰囲気や人間関係	自分にあった仕事	起業・創業のしやすい環境	重視するものは特にな	
TOTAL	222	23.0	9.9	25.7	17.6	22.5	41.0	5.0	17.1
18-19歳	2	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20-29歳	40	27.5	17.5	37.5	22.5	20.0	37.5	5.0	10.0
30-39歳	53	34.0	7.5	37.7	11.3	18.9	35.8	7.5	9.4
40-49歳	57	22.8	10.5	21.1	26.3	35.1	47.4	0.0	7.0
50-59歳	19	5.3	5.3	15.8	5.3	26.3	42.1	5.3	36.8
60-69歳	30	10.0	6.7	10.0	20.0	13.3	46.7	3.3	33.3
70-74歳	21	19.0	9.5	19.0	4.8	9.5	33.3	14.3	38.1



## ※2 「生活環境」

(単位: %)

n=	自然環境に恵まれた生活	家庭菜園やガーデニング	ゆったりとした生活	自然災害(地震・台風等)が少ない	治安	適度な人間関係	趣味の充実	地域活動・祭り等への参加	重視するものはない	
TOTAL	222	49.5	19.4	50.0	5.9	11.3	23.9	11.7	3.6	4.1
18-19歳	2	0.0	50.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20-29歳	40	32.5	22.5	42.5	12.5	20.0	32.5	15.0	5.0	2.5
30-39歳	53	43.4	15.1	49.1	3.8	15.1	26.4	17.0	5.7	1.9
40-49歳	57	52.6	14.0	57.9	8.8	7.0	21.1	8.8	5.3	1.8
50-59歳	19	42.1	15.8	57.9	0.0	5.3	10.5	15.8	0.0	15.8
60-69歳	30	73.3	23.3	50.0	0.0	3.3	16.7	3.3	0.0	6.7
70-74歳	21	66.7	33.3	42.9	4.8	4.8	28.6	9.5	0.0	4.8

## ※3 「医療福祉教育・子育て」

(単位: %)

n=	医療機関の数や医療レベルの充実	保育所の入りやすさ(待機児童が少ない)	保育サービスの充実(放課後対策等)	子育てにかかる時間の長さ	学校等の規模感(生徒数など)	子どもの教育環境(習い事や塾、スポーツ等)	都会にはない子育て環境	子どもの人間力形成に良い影響	重視するものはない	
TOTAL	222	37.4	14.0	5.0	14.9	9.5	7.2	26.1	20.7	20.3
18-19歳	2	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
20-29歳	40	37.5	27.5	15.0	30.0	12.5	10.0	20.0	10.0	10.0
30-39歳	53	28.3	22.6	3.8	15.1	17.0	3.8	35.8	20.8	13.2
40-49歳	57	29.8	5.3	1.8	15.8	5.3	8.8	29.8	26.3	28.1
50-59歳	19	42.1	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	15.8	15.8	31.6
60-69歳	30	60.0	3.3	0.0	3.3	3.3	6.7	23.3	23.3	20.0
70-74歳	21	38.1	14.3	4.8	9.5	4.8	9.5	19.0	23.8	28.6

### 【ポイント】

- ・首都圏に比べて関西圏の方がU I ターンを考えている人の割合が高い。
- ・総じて、自然環境やゆったりとした生活を重視する傾向が強い。
- ・仕事に関しては、収入やキャリアアップ以上に、「自分にあった仕事」「労働状況が改善」「職場の雰囲気や人間関係」を重視する割合が大きい。
- ・全ての世代で医療機関(数、レベル)に関する関心が高い。
- ・若い世代では子育て・教育に関する関心が高いが、「学校の規模感」よりも「都会にはない子育て環境」や「子どもの人間力形成に良い影響」を重視する傾向が伺える。

## 2. 総括

- ・I ターンを検討する人については、都市部と同様の環境を移住先に必ずしも求めているわけではなく、仕事や生活環境などの条件が合えば、中山間地域でも移住先の選択肢となり得ると考えられる。

## ■まとめ

- 実践層（U I ターン者）において、引き続き住み続けたいとする人の割合が約半数に留まっている点は、更なる原因分析と対策の検討を行う必要がある。  
とりわけ、周囲に縁故者が少ない I ターン者への支援のあり方を早急に検討する必要がある。
- 生活環境や医療福祉、子育て・教育などのように、短期での状況改善が難しい項目については、移住後の不満を軽減できるよう、事前により詳しい情報を提供する必要がある。
- 関心層（島根県へのU I ターンを希望する人）や低関心層（都市在住でU I ターンを検討したことがある人）に対しては、実際に移住した人の意見や暮らしぶりなど生活実態を実感できるよう情報提供を工夫する必要がある。  
各世代が重視している項目を踏まえた上で、都市部とは異なった地域の特色を発信することによって、ターゲットとする層に対してより効果的に訴求できる。
- 人間関係や地域との関わり方については、階層やU I ターンを問わず不安を感じる人が多く、一方で、近所付き合いの度合いが深いほど定着率が高い傾向にある。地域コミュニティへの参加を促すための支援や、孤立を防止するための仕組みづくりを進める必要があり、そのことが定着率の向上や、U I ターンを促進する上で大きなPRとなり得る。
- U I ターンに関する情報源やサービスについては、認知度の低いコンテンツについては相談窓口やU I ターンフェアなど様々な機会を捉えPRを行い、また利用頻度の低いコンテンツについては利便性や情報の質の向上を図る必要がある。
- 今後は、本調査の結果に加え、U I ターンフェアや産業体験事業などの機会を捉えてさらにU I ターン希望者のニーズを捉え、実際にU I ターンした人への支援を行っている担当者（定住財団、市町村など）の意見や地域の実情を把握したうえで、必要な支援制度を再構築する。

## ■参考（個別意見で特徴的だったもの）

### ○U I ターンを検討する際に困ったことや不便を感じたこと

#### 「仕事に関すること」

- ・移住前に就職活動をしようと思っても交通費が高い。(U)
- ・賃金相場が分からなかったため、Uターン後の生活がイメージできなかった。(U)
- ・最初に県の相談窓口に行くまでが不安だった。  
転職で会社を探している際、都会に比べて長いスパンで入社タイミングを見てくれる会社が意外に多いと思ったため、転職活動は自分のペースで大丈夫と呼びかけると良いと思った。(U)
- ・賃金が低い割に、一時的な支出が増える（面接、引っ越し、学用品の準備、車等）(U)
- ・「職種さえ合っていれば」ということだけが志望動機になってしまった。(I)
- ・転職支援をしてもらったが、東京と同じように交渉しても良いのか分からなかった(I)

#### 「生活環境に関すること」

- ・定住財団から求人情報は得ることができたが生活面での情報が少なかった。  
Uターン者はまだいいが、Iターン者は実際の生活が想像しにくく困ると思う。(U)
- ・給与水準が下がることはある程度理解しているが、どの程度生活費がかかるのかが知りたい。(U)
- ・買い物するところがないと思い心配していた。  
情報があっても口コミが少なく不安。交通費がかかり、気軽に何度も伺えなかった。助成や、行かなくても分かる様な情報がもらえると有難い。(I)
- ・移動手段（公共交通機関）が分からない。  
距離感が思った以上に遠くて移動の計画が立てにくかった（バス等の本数が少ない、乗り継ぎが不便等）(I)

#### 「支援」に関すること

- ・どこに相談すればどういった支援を受けられるかの窓口が不明。  
頼れる部分と、自分が主体的に動かなければいけないことの区別がつかない。(U)
- ・支援が地域ごとに違っており、それを比較できるツールがあると良かった。  
自分が移住する時に利用できる支援や補助をきちんともれなく利用するためには、多くの資料を見なければならず、受けられる補助を図示したものがあれば良かった。(U)

#### 「その他」

- ・U I ターンは自分の自立した選択によるものなので、誰かに支援してほしいと感じたことはない。物件探しも、不動産業がないということで驚きはしたが、定住財団の窓口から町役場につないでいただき、困らなかった。現在の制度は、U I ターンを検討するのに十分な体制だと思う。(U)
- ・交通の便が悪く、見学に不便 (I)

## ○U I ターン後に困ったことや不便を感じたこと

### 「仕事に関すること」

- ・思っていたより賃金に対して物価が高い。(U)

### 「生活環境に関すること」

- ・自治会加入のお誘い等があれば入るが、アパートには声がかからない。広報誌なども全く回ってこない。今後子どもができれば、小中高と学習に行く必要があるが、市内の学校の校風などが分からない。病院はたくさんあるが、良い場所かどうかの情報が分からない。(I)

### 「子育て・教育」に関すること

- ・保育園に入れず困った。代替サービスの提案が分かりやすくなれば。(U)

### 「その他」

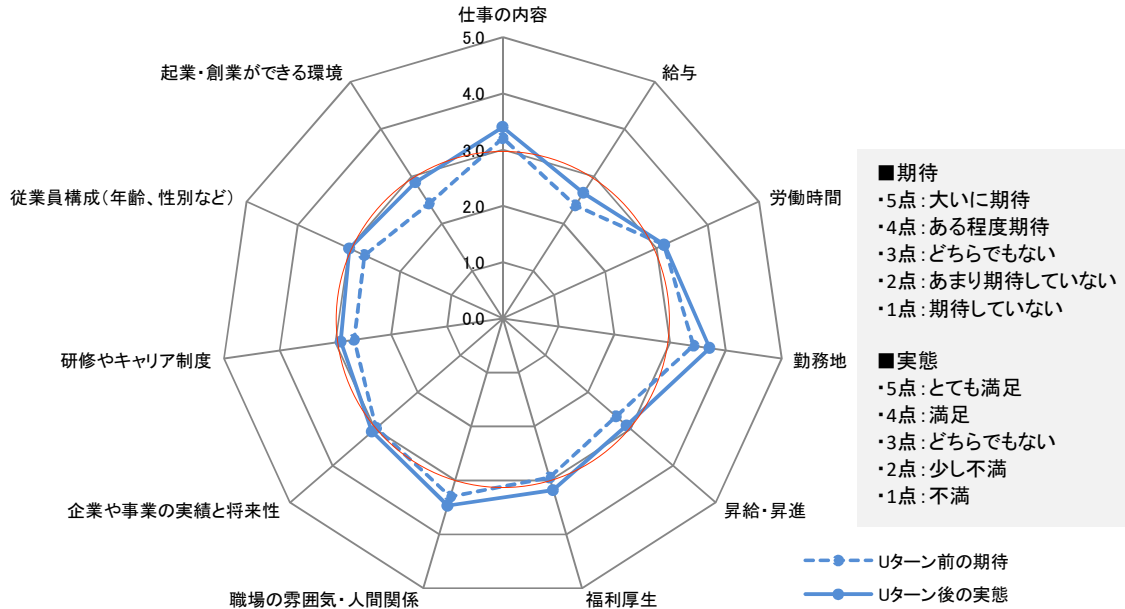
- ・家族の転勤で来たので、同じ立場の方同士で交流する場がほしいと思った。(I)

## U I ターン者等への意識調査結果の概要（補足資料）

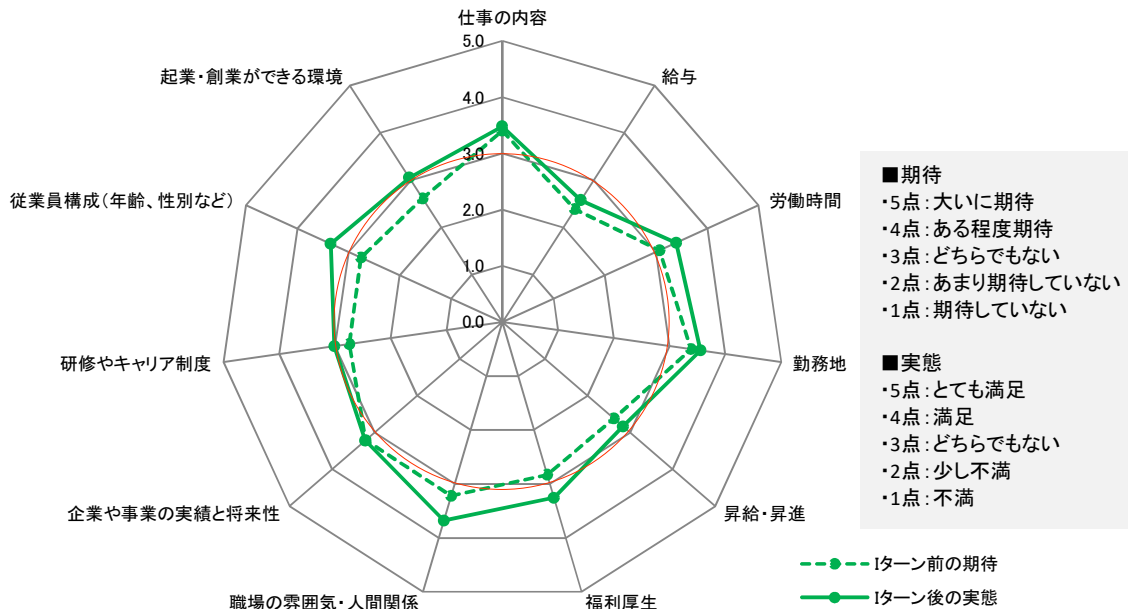
### 「U I ターン後の生活実態（期待度と満足度のギャップ）」

#### ①仕事に関すること

##### 【Uターン者】



##### 【Iターン者】



※点数の算出方法は、以下のとおり。

**■期待**

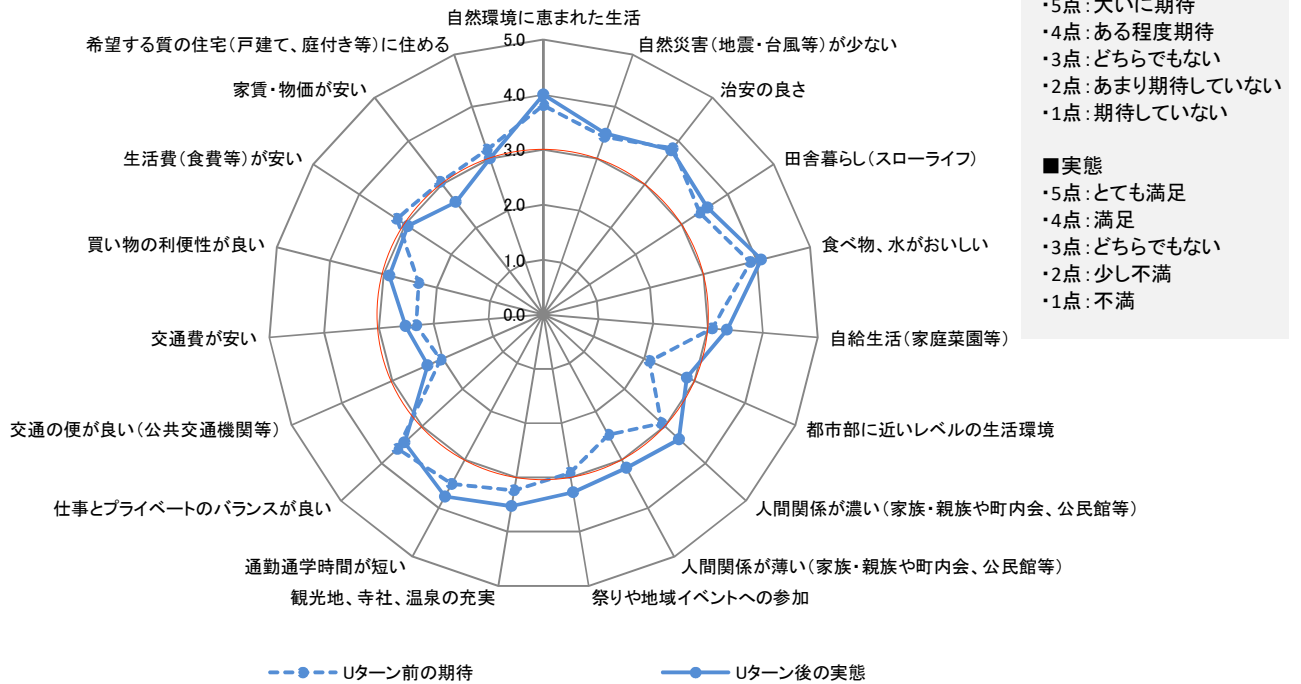
「大いに期待」を5点、「ある程度期待」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまり期待していない」を2点、「期待していない」を1点とし、それぞれ積算した合計値を回答数で除して算出した。

**■実態**

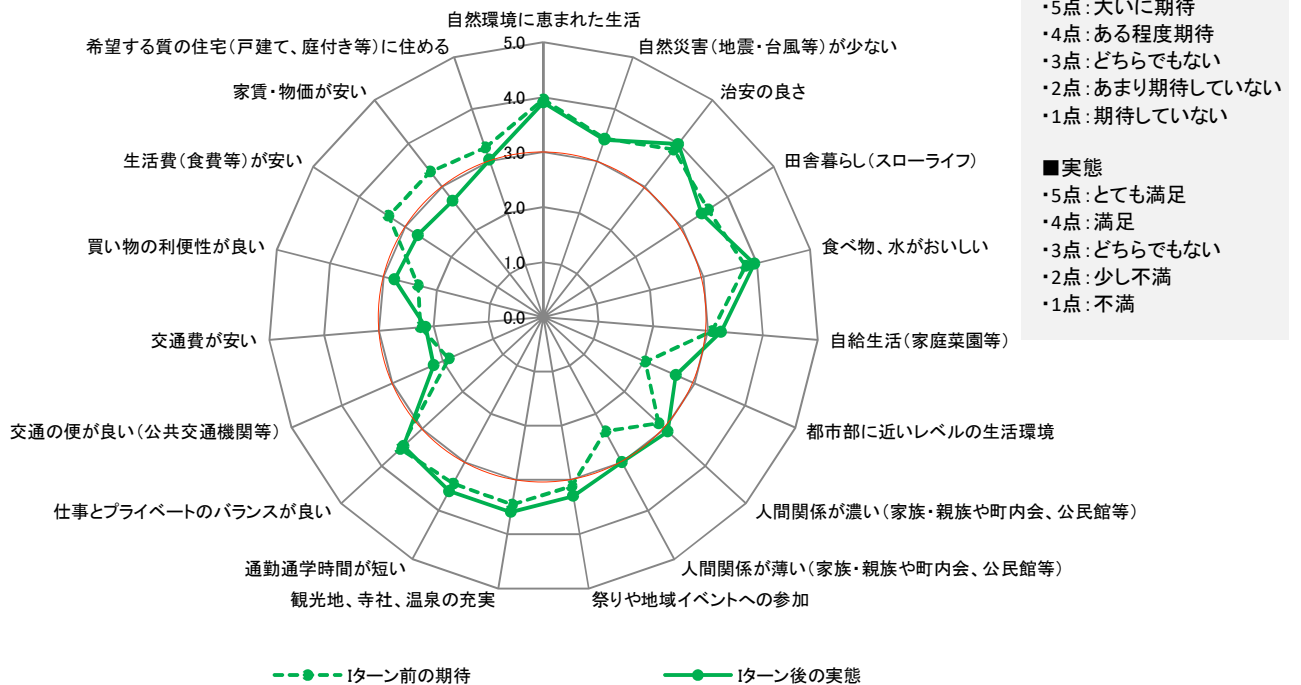
「とても満足」を5点、「満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「少し不満」を2点、「不満」を1点とし、それぞれ積算した合計値を回答数で除して算出した。

## ②生活環境に関すること

### 【Uターン者】



### 【Iターン者】



※点数の算出方法は、以下のとおり。

**■期待**

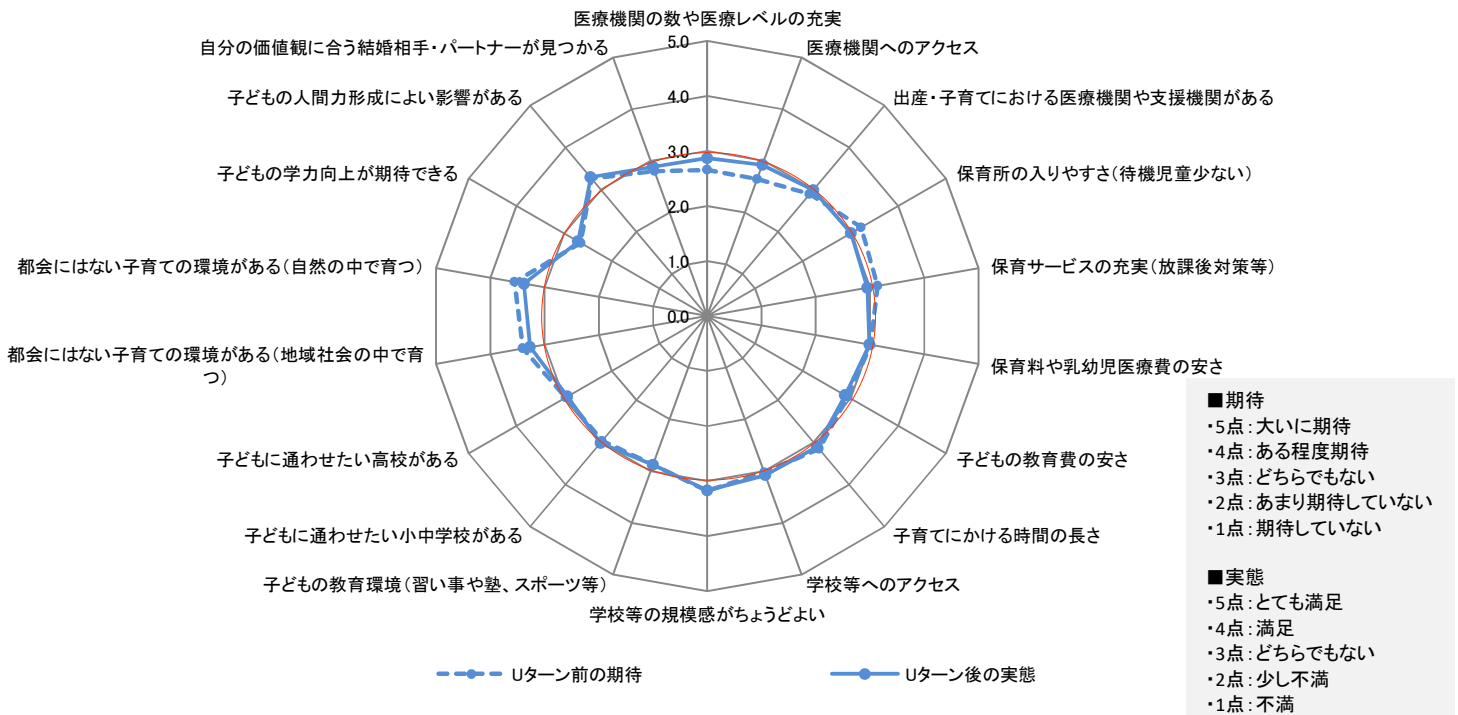
「大いに期待」を5点、「ある程度期待」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまり期待していない」を2点、「期待していない」を1点とし、それぞれ積算した合計値を回答数で除して算出した。

**■実態**

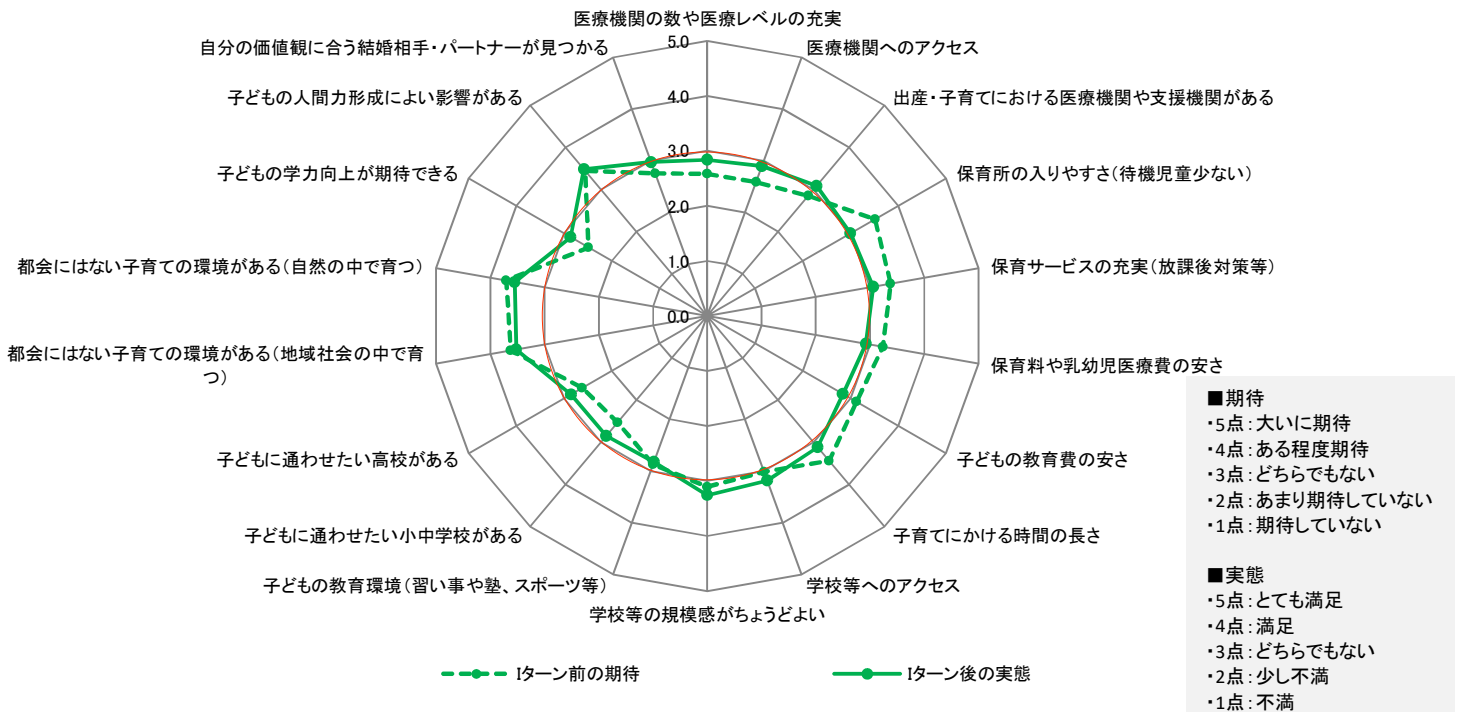
「とても満足」を5点、「満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「少し不満」を2点、「不満」を1点とし、それぞれ積算した合計値を回答数で除して算出した。

### ③医療福祉、教育・子育てに関すること

#### 【Uターン者】



#### 【Iターン者】



※点数の算出方法は、以下のとおり。

#### ■期待

「大いに期待」を5点、「ある程度期待」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまり期待していない」を2点、「期待していない」を1点とし、それぞれ積算した合計値を回答数で除して算出した。

#### ■実態

「とても満足」を5点、「満足」を4点、「どちらでもない」を3点、「少し不満」を2点、「不満」を1点とし、それぞれ積算した合計値を回答数で除して算出した。